

会員数	37,388	(前月比) + 43
郵送	9,145	(前月比) + 26
手配り	26,495	(前月比) - 3
協同基金到達額	2,476,484,000円(8/31現在) [前月比 23,497,000減]	
協同基金出資者数	17,500名(8/31現在)	
いのちを守る助け合い募金額	2,500円(8/1~31)	



発行  
健康友の会 みみはら  
民医連  
本部事務局組織部  
機関紙編集委員会  
〒590-0821  
堺市堺区大仙西町6丁184-2  
Tel.072-244-8061  
Fax.072-244-7860  
1部30円

# 第14回 全日本民医連共同組織活動交流集会

## 同仁会から25人参加

in神奈川



はいチーズ！大阪からの参加者と

# 全国から2400人集まる

第14回全日本民医連共同組織活動交流集会in神奈川が9月9日、10日の2日間開催されました。全体会は、パシフィコ横浜国立大ホールに、全国から2400人ものが集まりました。その中には先日、被災した北海道の方々41人も参加しました。同仁会グループからは25人が参加しました。

### 交流集会に参加して

全体会の講演では、まず始めにワシントン大学のヘイムス・アーロンさんが講演。彼は文化人類学の視点から健康と病気について分

析し、そこから民医連の病院や共同組織が、どのように健康と病気についてアプローチしているか説明されました。

続いて取り組みの報告として、まず、兵庫の尼崎医療生協から、3000万署名の取り組みの意義や達成のためにできること、憲法の大切さについて話されました。

静岡西部健康友の会のは、診療所なんでも相談会での、無低診だけに留まらない解決法を、報告されました。

石川県健康友の会金沢南ブロックでは、支部が取り組んでいる医療懇談会や子ども食堂・カフェの経営等や放課後学習サポート小屋等の紹介がされました。

夕食交流会は横浜中華街のロースホテル・重慶飯店で行なわれました。交流会はとても盛り上がり、最後には皆で肩を組んで沖縄の歌を数曲歌いました。

医療生協さいたまからは生協の県西地域の見守りネットワークや、退院後の支援・くらしサポーターや訪問活動等の取り組み。

10日の分科会。私はみみはらの発表者の写真を取るために、複数の分科会を見学したのですが、どこも人がいっぱい。ある分科会では机の横の通路に椅子を設置し、列をなして座るほどの大盛況でした。

沖縄医療生活協同組合は翁長知事の意思を受け継ぎ、辺野古新基地を造らせない意気込みや普天間基地の問題点、沖縄の戦後の歴

史について発言されました。最後の発言は現地横浜の奨学生。民医連や共同組織との出会い、そしてその取り組みに参加して自分が元気をもらった。奨学生は学生のうちに経験すべき！一緒に健康づくりの活動をして皆さんに元気を与えたい、と話してくれました。

私が特に印象に残った取り組みは、福岡県の「米の山ふれあいセンター」が実施している「高取ふれあい子ども食堂」です。子ども食堂の参加が非常に多かったからです。今年の4月はなんと全体で177人。子

ども参加者は110人で、高取小学校の総生徒数



全体会の様子

2008人の半数以上。これ程の人数が集まった要因は、子どもは無料ですが、条件として何かひとつお手伝いをする事」としたこと。子ども食堂のコンセプトは「貧困対策」でなく、しつけの場の提供」と説明し、学校の先生から保護者に説明してもらえたこと、だそうです。

全日本共同組織交流集会では、各地域の多くの取り組みについて学びました。今年はあちこちで災害がありました。被災地の方々は負けずに頑張っています。この交流会に参加できて良かったと、強く思います。

(組織部 村瀬遊野)

### 心と体にきく!!

## 秋のウォーキング ご案内

— 光明池周辺の樹木豊かな緑道を歩きます —

開催日程	11月17日(土)	コース	光明池駅⇒新檜尾公園⇒鴨谷公園⇒城山公園⇒光明池周辺⇒光明池駅
集合場所	午前9時00分 泉北高速鉄道線「光明池駅」改札出たところ		コースは変更になる場合があります。
解散場所	光明池駅周辺 正午頃 (多少前後します)		(全体で解散後、アドバイザーは表彰式があります)
定員	30人程度		
持ち物	飲み物、雨具、交通費など		
距離	約7~8キロ(勾配多数)		
服装	動きやすい服装と靴、リュック		
参加費	無料 ※交通費各自実費		
対象	友の会会員で普段からよく歩いている方(トイレ休憩は数カ所予定)		
締切	先着順(満員になり次第締め切らせていただきます)		



雨天中止

午前6時55分のNHK気象情報で「午前の降水確率50%以上」の場合中止とします。  
※当日は「ウォーキングアドバイザー養成講座」の歩行実習と同時開催です。グループ歩行や班長の指示にご協力をお願いします。

お申し込み/お問い合わせ 健康友の会みみはら 事務局 担当(淡路) 電話 072-244-8061

## 聴診器

厚労省が進める「患者のための薬局ビジョン」について担当者の説明を聞いた。話の出だしは日本の人口は減る、であった。現在人口は1億2640万人、ピーク時年270万人だった出生数が一昨年100万人を切った。一旦人口減少に転じると戻すのは容易ではなく100年後には4000万人台になるとの予想もある。人口が減り税収が下がると政府は医療や社会保障、教育などの予算や人員を減らす可能性がある。人口減やわなしかとの質問に担当者は「そうではない」と答えていた。▲諸外国との人口比医師数の比較から日本は医師が足りていない。しかし医師を増やすなどの声が厚労省、大学そして一部の医師からも上がる。これから2040年頃までは多死社会と言われるが医師を増やさないで政府、厚労省は乗り切ろうとしている。例えばこの4月、離島の死亡確認を医師ではなく看護師ができるようにした。本人、家族、看護師にとつてどうなんだろうか▲前回のこのコラムで山上医師は、東京医大の入試で女性受験者の扱いの不当性を述べた。大学は結婚後の離職が多いことを理由にしている。医師の仕事の中でも当直業務は極めて過酷で、ほとんど眠れないまま翌日仕事をし帰宅後家事、育児をするのは女性でも男性医師でも相当きつい。医師も労働者だ、夜勤明けはすぐ帰れるとするには医師を増やすことがどうしても必要である。(和)